

CSだよりはいちゅう

令和3年3月発行

コミュニティ・スクールの仕組み

◇ 学校運営協議会と同制度について (中教審より)

コミュニティ・スクールの仕組みとしての**学校運営協議会**は、校長の作成する学校運営に関する基本的な方針の承認を通じ、校長のビジョンを共有し賛同するとともに、地域が学校と一定の責任感・責任意識を分かち合い、共に行動する体制を構築するものである。すなわち、**学校と地域がビジョンや課題を、情報等を共有し、熟議し、意志を形成する場**であり、学校と地域が相互に連携・協働していくための基盤となる会である。

学校運営協議会制度は学校運営の最終責任者である**校長を支え、学校を応援すること**で、**地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを推進する**という役割を明確化していく制度である。

榛原中の運営協議会委員が決定しました

* 学校の応援団、学校のニーズに応えるため、地域の代表・専門的な分野の方をお願いしました。

◇ 学校運営協議会委員名

(敬称略)

1	神谷好一	仁田	元川崎区長・前友仁会会長
2	須藤孝夫	坂部	元学校評議員
3	大石弘子	静波	元福祉こども部長
4	杉山広美	静波	看護師・整理収納アドバイザー
5	山崎泰	細江	元学校評議員
6	榎田哲也	勝俣	Iテック副社長・ハイッJC副理事長
7	大石寛之	坂部	PTA代表・PTA副会長
8	大石友巳	仁田	校長
9	伊故海芳則	坂部	CSアドバイザー

任 期 令和3年4月1日～令和4年3月31日

(次号で顔写真入りの自己紹介を掲載します)

先進校の視察を終えて (CSDの私見)

地方（牧之原市）の学校では、以前から地域との協力、連携は得られているのでコミュニティ・スクールの導入は必要がないと思っていた。今回市内小中学校（指定）の先進校を視察してみて、改めてコミュニティ・スクールの有用性を感じた。

特に小学校では体験的な学習場面において、地域の方が上手に関わって、子どもたちの主体的な学びの姿や、さらには学びが深まっていく様子が見て取れた。地域の方も子どもたちの成長していく姿に喜びを感じ、学校に関わることを楽しみにしている。正に「地域と共にある学校」に近づいていると感じた。

榛原中の目指すコミュニティ・スクールは小学校のような連携は難しい。中学でのニーズは少し違うように思う。隙間もない教育課程の中に入り込む余地はなく、教科や領域においては、科学的な根拠や裏付けなど、理論的・専門性が要求されるからではないか！

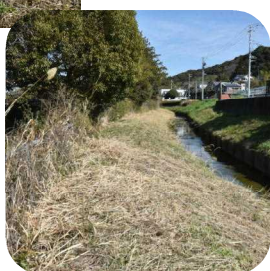
学校・教職員のニーズなきところに連携はないと考える。主体は学校であり、ねらいをはっきり定めた連携でなくては、教職員の多忙化がさらに進む心配がある。

地域連携の実例 (試行例)



草刈り前

南側から



草刈り後

グラウンド東側、ソフトボール場・テニスコートのフェンス越え（仁田川沿い）100m位にわたり小道が続いています。昨年の夏に仁田友仁会の皆様と職員で除草作業を行いました。ところどころ草が雑木になるまで大きくなり、草刈りに大変手間取りました。また、斜面のため滑りやすく危険も伴いました。

そこで、冬の枯れ草の間に草刈りをおけば、おおい茂った夏場の状態より楽に草刈りができるため、天気の良い日にCSDが除草作業を行いました。



坂部口のさざんかの枝きり



河津桜と榛原中